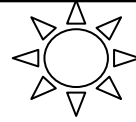




ふちゅう東西南北



# 生涯学習だより

第47号 2014年3月24日

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

発行：府中市文化スポーツ部生涯学習スポーツ課

ふちゅう生涯学習センター共同事業体

〒183-0001 府中市浅間町1-7 府中市生涯学習センター

TEL 042-336-5700

## 主な記事

- P.1 「悠学の会」設立10周年に当たって
- P.2 10年のボランティア活動をふり返って
- P.3 自主グループ紹介  
・府中コロジオン  
版画の会  
・古文書同好会
- P.4 ふちゅう東西南北  
郷土の森と下河原緑道



## 生涯学習ボランティア 「悠学の会」設立10周年にあたって

府中市生涯学習センターでのボランティア活動は、平成14年に始まりました。生涯学習センターの呼びかけに応じて、初年度には約100名が名のりをあげ、学習情報やパソコンなどのグループに分かれて、協力を始めました。平成16年3月に、いくつかのボランティア・グループがまとまって、「悠学の会」を設立しました。「ボランティア活動を仲間と一緒に楽しみ、その中で自らも悠々と生涯学習をすすめたい」ということで、「悠学の会」と名づけられました。

平成23年には社会教育関係団体となり、自立性を強め、活動範囲も徐々に広がってきています。現在、会員数が65名で、三つの分野で協同の活動をしています。

1. 学習情報の提供（情報誌紙の整理と館内掲示、講座記録冊子の編集・制作、「生涯学習だより」

の編集・制作、記録映像の制作と上映など）

2. 講座の企画・運営（教養講座、パソコン講座、映像による教養講座）
3. 交流機会の提供（生涯学習フェスティバルへの協力）

生涯学習センターは、平成25年度より、民間指定管理者による運営となりましたが、「悠学の会」は、ひきつづき、生涯学習センターが、市民のみなさんに充実した生涯学習の場と機会を提供できる親しみやすい施設として発展できるように、ボランティアの立場から、指定管理者・市との協働を進めていきたいと考えています。

生涯学習センターを利用されるみなさんも、みんなと一緒に学ぶ楽しさ、学んだことを社会に活かす楽しさを、ボランティア活動を通じて実感してみませんか。（悠学の会）

### 「悠学の会」発足10周年を祝して

文化スポーツ部長 後藤 廣史

「悠学の会」発足10周年おめでとうございます。

思い返せば、社会教育課と生涯学習振興課を統合して生涯学習課となった平成15年4月に、私は生涯学習課長補佐を拝命し、生涯学習センターで執務しておりました。

当時は行政からのアプローチとして、生涯学習ボランティアの募集や、ボランティア養成講座を開講するなどしておりましたが、平成16年に待望のボランティア組織「悠学の会」が発足したのです。

そして10年、「悠学の会」の運営をこれまで支えてみえたのは、会員一人ひとりの熱意だと思います。生涯学習センターは、日々の生活をより豊かにするため、趣味に励む団体、講座の受講生、スポーツ施設利用者と、熱意を持った人が集まる場所です。

今後とも、「学び返し」を通じた生涯学習の推進を「悠学の会」、府中市、指定管理者の協働によって行ってまいりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

結びに「悠学の会」のますますのご発展をお祈り申しあげ、お祝いいたします。

### ボランティア活動10年

悠学の会代表 山内 啓司

平成5年に設立された府中市生涯学習センターは、創設期には、NHK学園や近隣の識者に依頼して相応の教養講座を開催していた。活性化のため、府中市としてボランティアを養成し、平成14年4月には公募によって約30名の学習情報ボランティアを組織して、蔵書目録、新聞雑誌クリッピング、講座記録、情報瓦版の4アイテムについての活動を始めた。「生涯学習だより」を創刊したり、郷土の詩人・村野四郎の「生誕100年記念誌」を発刊したり、「生涯学習フェスティバル」に参画し市民作品展の展示作業などに携わった。また、文科省の衛星放送によるエルネット講座の導入などがおこなわれた。

平成16年には、学習情報とパソコンのグループが「悠学の会」として組織化され、映像グループを加えて、今日に至っている。

平成25年より、学習センターは指定管理者による運営となり、市・指定管理者・ボランティアの三者の新しい協働が始まった。今後の市民の皆さんの学びの輪のひろがり期待したい。

# \*\*\* 10年のボランティア活動をふり返って\*\*\*

## ◇ 夙戸 茂 (情報誌管理グループ 悠学の会前代表)

府中市生涯学習センターで長年勤務され、市の生涯学習事業担当をしていたのが石川博幸さんである。大袈裟に聞こえるかもしれないが、日本各地の生涯学習運動に知られる存在であった。その証拠に北は山形から、西は京都・大阪からの活動資料を私は目にしている。それらの資料の一年分を整理・分類する作業をまる2日間かけて手伝ったのが私には忘れ難い。また多摩に残る算額の知識を得た石川さんと、大國魂神社宝物殿をはじめ八王子・武蔵野にある神社等の算額の実地見学に私達を誘った。他にも湘南各地の童謡のふる里も訪ね歩いた。市民の目線で飽くなき興味を示した姿で。本当にその行動力には目を見張るものがあった。

亡くなる前、新勤務先の中央図書館で情熱を傾け、生涯学習活動について私に語った石川さんを忘れない。

## ◇ 田中 春子 (新聞クリッピンググループ)

今から三十数年前、浦和市在住の叔父が、「老人大学で生涯学習の講座を受講している」と楽しそうに話していました。当時、私はとても新鮮に感じ憧れを抱きました。その思いが、「悠学の会」へ入会した大きなきっかけでした。しかし戦争真っ只中の女学校時代は女子挺身隊として働き、戦後は焼け跡の片付けと、学問とは程遠い生活でした。その上“女のくせに”が口癖の明治生まれの父に育てられ、社会へ出た経験もなく、結婚・子育てと専業主婦だった私は、何も出来ないことを思い知らされました。そこで選択したのが新聞クリッピング。日経新聞は60年近く親しんできましたので、テーマを決めて記事を切り取ることにしました。しかしどなたかのお役にたっているのかしらと懸念しておりましたが、ある日息子と同じ年頃のご婦人が読んでおられる姿に出会い、思わず声を掛けてしまいました。とてもうれしくて、また頑張る気持ちが湧いてきました。仲間の皆様に助けていただき何とか続けております。最後に90歳になる友人の詠まれた年賀の一句を。

“紅さして チョットおしゃれな初鏡”

幾つになっても女性でいたいと思います。

## ◇ 田井 美和子 (情報紙作成グループ)

学習ボランティア第一期募集は平成14年4月でした。説明会、ボランティア養成講座、4班に分かれてのワークショップを体験して、一番興味をもった情報紙づくりを選びました。当初の目的は、創刊号で、9月に行われる生涯学習フェスティバルの特集を作ることでした。ふちゅう東西南北「生涯学習だより」と名付けて編集作業がはじまり、右も左もわからない者同士が頑張って、なんとか印刷にこぎつけました。その頃私が初めて書いた記事はJRA競馬博物館の取材です。不慣れなインタビューにも丁寧に受け答えをしてくれた学芸員さんを今で



も覚えています。そして“楽しくボランティア活動しよう”を合言葉にして、それぞれが知恵や力を出し合って編集作業に当り、パソコンのスキルアップにも取り組み、企画・取材・原稿おこし・校正・レイアウト・印刷など何とかこなせるようになりました。いつの間にか10年が経ち、前に進む努力を惜しまず頑張ってきた編集仲間と共に歩み、より良い「生涯学習だより」を作っていきたいと今思っています。

## ◇ 森山 レイ子 (情報紙作成グループ)

平成5年、定年退職を前にして初めて出合った「生涯学習」の言葉に大いに感化され、私の中では「生涯学習」の解釈で、さまざまなボランティア活動を実践し、その楽しさに魅せられて今日に至っています。

平成14年に開始された当生涯学習センターでのボランティア活動にも即参加し、同期の仲間たちと主に次の活動を続けてきました。市民への学習情報発信を目的とし、学習センターと協働で活動して、さっそくこの年の9月に、**ふちゅう東西南北「生涯学習だより」**を発行。以来毎年4回発行し、12年目を迎え、今回の発行が47号という長寿だよりになりました。

多くの出会いと館内での諸事業に協力し社会とかかわるやり甲斐や達成感が楽しい交流につながります。さらに館内は学習情報満載。皆さん、ぜひ、生涯学習ボランティアに参加してこの楽しさを体験されることをお勧めします。「悠学の会」の10周年にあたり、設立時の状況感慨深く思い出しています。

## ◇ 芳野 達男 (講座記録グループ)

私が「悠学の会」に参画したのは、いくつかの職業を経て稼ぐ仕事を離れて数年後の70歳を目前にした頃のことであった。いささか格好良すぎる感はあるが、仕事仕事に終始していた毎日、それはMust(マスト、しなければならない)の生活から、自由な生活への移行に戸惑っていた時期であった。今日は何をしようか、明日はと、退屈の連続の中で、自分の処理に思い悩んでいたジャストその時に、府中市の広報でボランティアの募集があることを知った。

ボランティアという言葉は知っていたが、いったいどんなことをするのかもわからないままこれに応募した。自分でもできる事柄を見出し、これに参加でき、かつ今までの出会いとは別の多くの仲間との交際が可能となったことはありがたかった。それまでは今までにはない自分の再発見ともなった。世の中の役に立つとはいかないまでも自分の存在感を見出すためにも、周囲のサポートを頂きながら。これからこの活動を続けたい。

# ☆☆☆☆☆☆☆☆ <自主グループ紹介> ☆☆☆☆☆☆☆☆

## ◇府中コロジオン版画の会

コロジオン版画とはどういう版画でしょうか。コロジオンというのは薬品の名前で、乾くと薄い皮膜をつくる性質があります。マニキュア、水絆創膏、塗料などに広く使われています。この版画では、ポリエステル製の半透明の薄い紙の両面にコロジオンを塗布したものを版として使いますので、コロジオン版画というようになりました。木版では木の板、銅板では銅の板が版を作る材料になりますが、コロジオン版画ではこの薄いコロジオン原紙が製版の材料になります。

製版の方法は、コロジオン原紙にコロジオンの皮膜を溶かす液を毛筆につけて描くと、ポリエステル繊維の間の細かい隙間の穴が開いて版ができます。仕上げはゴムローラーに油性の絵の具をつけて、版の下に置いた紙にローラーを転がして刷りおろします。多色刷りの場合は色ごとに原紙を替えて製版し、ローラーで刷ります。

コロジオン版画は版を作るにも刷るにも全く力がいりません。年賀状なら何十枚も、上手に刷れば百枚以上も刷れて、色彩豊かな作品ができます。

コロジオン版画の会は活動日・会場により五つの会に分かれています。生涯学習センターでは「朋の会」(第2・第4月曜日)、「コロ版の会」(第2・第3火曜日)、「彩の会」(第1・第3土曜日)の3つ、中河原の女性センターでは「花版画の会」(第2・第4木曜日)、調布たづくり会館では「四季の会」(第2・第4水曜日)のあわせて5つです。どの会でも教材や進度は同じです。初心者には懇切にローラーの持ち方からお教えます。どの会もとても明るい雰囲気でお互いに尋ねあい、教えあってコロジオン版画を楽しんでいます。ぜひ見学においでください。

連絡先：望月 雄二 042-572-5064



コロジオン版画 (子猫)

## ◇古文書同好会

皆さんが生活している府中の歴史をより理解するために、未解読の古文書を読んでみませんか！

府中は歴史の宝庫です。郷土の森博物館に所蔵されている古文書は宝ものです。より一層、江戸時代の歴史が身近になってきます。経験20年以上のベテランと一緒に読みますから、初めての方でも安心です。

皆んなで意見を出し合いながら読み進めており、サポート体制も充実しています。古文書とは不思議なもので、これにも見えるし、あれにも見える。昨日までは読めなかった字がいろいろ調べていくうちに突然読めた時の感動、それはうれしいものです。最後の20分はお菓子を食べながらの雑談タイムです。気軽な気持ちで、入会してみてください。皆様からの連絡をお待ちしています。

**活動日**：毎月 第1・第3水曜日  
**時間**：午後1時30分～4時  
**活動場所**：中央文化センター又はグリーンプラザ  
**会費**：月額 500円  
**連絡先**：小島 042-363-1072  
伊藤 042-362-6527

(註) 現在解読中の文書：矢島家文書  
会としての解読文書には【府中市地域古文書解読集】として「人見村河内家文書」から「押立町有文書御用留八」まで計11冊に及び、郷土の森博物館、府中市図書館等に寄贈し、一般の方に公開されています。



古文書資料

## ふちゅう東西南北 郷土の森と下河原緑道

私の住んでいる所は南町です。読んで字の如く府中市の南に位置します。この町の名所はなんと言っても「郷土の森」です。私の両親が33年前に都内から引っ越してきた当初、まだ博物館はなく、市民健康センターとっていました。今の総合体育館のある所だけです。昔、この地は砂利採掘場でした。そこで掘られた穴は砂利穴と呼ばれて、水があり、砂利採取船が浮かび、子供達の格好の遊び場でした。子供達に事故が起きるなど、大変危険な場所だったそうです。しかし昔は多摩川の河原は現在より大分高くなっていて、それが砂利を採るようになって低くなり、洪水も少なくなったそうです。とにかく多摩川という川はやっかいな川だったそうですが、アユがよくとれ、多摩川のアユは頭がやわらかで頭から食べられたそうです。是政と下河原では鵜飼も行われたとのこと。そんなのかな時もあったんですね。

昭和30年代後半に砂利穴の面積がピークを迎えましたが、昭和40年に多摩川全域で砂利採掘が全面禁止、昭和42年からこの広大な砂利穴を埋め始め、公園が造られました。平成20年3月からは「郷土の森公園」に改称されました。

「郷土の森博物館」については皆さんすでにご存知の通りで、建築物を中心とした野外博物館であり、四季折々の草花も楽しめます。私は花の写真撮影によく行きます。私の好きな花を幾つかあげますと、まず「ロウバイ」。園の南西にありロウバイの小路100mに3種類90本が冬の澄んだ青空に黄色く咲き揃うのは見事です。「梅」は府中市の花でもあり、約60種1,000本以上が咲く、都内有数の梅園として有名です。「アジサイ」は京王沿線にも知られた箇所が沢山ありますが、ここも決して見劣りはしません。色と数は見事です。「蓮」、これは修景池にあります。大賀蓮をはじめ30種類の花蓮を楽しめます。7月には「蓮を見る会」での写真撮影を楽しみにしています。その他にも沢山の花々が楽しませてくれ、遠くからわざわざ来る人もいます。私達はいつでも行けるので幸せです。これまでは園内での話ですが、園外には「多摩川かぜのみち」に面した土手で、野球場やテニスコートの裏側にあるさくら並木、満開時はそれはそれは見事です。街中の「さくら通り」ではシートを広げての飲食はできませんが、ここはお花見には絶好の場所です。土、日は人でいっぱい、お花見をするなら平日をお薦めします。



多摩川堤のさくら並木

話は砂利採取に戻りますが、砂利採取の際重要になってくるのが運搬です。コンクリートを使った建築物の増加にともない、大量の砂利の需要が高まってきた時代に、明治43年、多摩川の砂利の運送を目的に、現JR国分寺駅から下河原（現府中南町3丁目）まで東京砂利鉄道の貨物専用鉄道が開業。その後一時閉鎖されましたが、大正5年軍用鉄道として復活。大正9年には国有化され「下河原線」となり、その後乗客も乗せるようになりました。しかし昭和51年には廃止、66年間の歴史に幕を降ろしたそうです。



下河原緑道公園

下河原線の跡地は国鉄から府中市に譲渡され、今は甲州街道から郷土の森を結ぶ「下河原緑道」になっています。コースは美好町、宮西町、片町、本町、矢崎町と南町の八幡神社まで3.6km、歩行時間1時間の丁度いい散歩コースです。スタートの下河原線公園広場には当時の枕木やレールがあり、かつての名残を残しており、跡地を訪れる鉄道ファンも少なくないようです。途中南武線の跨線橋から時々、ママと男の子の親子が電車を覗いています。ほほえましく眺めて、自分の若いころを思い出したりしています。またこの道の両側には四季折々沢山の草花が咲き、心を癒してもらえます。特に中央高速道に近い所にピンクのバラが美しく咲き誇って、楽しませてくれています。

(菅原 亘・記)

### 編集後記

第47号は、「悠学の会」設立10周年記念の特集号です。振り返れば10年は短いですが、10年もの長きにわたって「生涯学習だより」を生み育ててくださった生涯学習センターの担当者、先輩ボランティアの編集者の皆さんに心から敬意を表します。3.11東日本大震災を契機に、「人々の絆」の大切さが再認識されていますが、これからも「生涯学習だより」が市民の皆さんを結ぶ絆の役割を果たせればと思います。(奥野)